

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

はいさい

はいさい

HCUでーびる!

HCUを開設します

開院4年目を迎える6月に合わせHCUのプレオープンを目指し準備を進めています。HCUとはICU(集中治療室)と一般病棟の中間に位置する集中治療施設のことをいいます。当院ではICUと隣接した場所に増設し経験豊富なスタッフがHCU看護を担います。あらゆる症例・入院の受け入れを想定し「作戦ボード」でスタッフの動きをシミュレーションする等、共通イメージづくりと治療環境の整備をしている段階です。

HCUの開設で急性期医療環境が拡充されることになります。救急

医療への貢献と地域・組合員の期待と要望に応える為に、役割と自覚をもち信頼されるHCU看護が提供できるようスタッフ一丸となって準備に取り組んでいきます。6月1日は「はいさい、HCUでーびる」が順調な第一歩を踏み出せますように。

ICU師長 金城悦子



病院の活動状況

<4月度>

- ・外来一日平均患者数: 769人(前年同月比-56人)
- ・入院一日平均患者数: 262人(前年同月比-14人)
- ・組合員利用率: 52.7% (前月比+1.5%)

雨に咲くあじさいの花
あの色、この色、自分色

皮膚科 山城栄津子

福祉保健所

トスツやラッシュガード、

長そでTシャツやスパッツ

等の着用をお勧めしま

す。(参考サイト…中部



画:内科医 上原和博

海洋生物による皮膚障害・ハブクラゲ

ひよせ
74 皮膚科



沖縄は、これから本格的な夏を迎えるようとしています。毎年必ずハブクラゲによる皮膚障害により当科を受診される方が数名います。

ハブクラゲは、言わざと知れた海洋危険生物ですが、インド洋からフィリピン・琉球列島まで分布し、6月～9月にかけて海水浴場に出現します。ハブクラゲの被害は7月から8月にかけてピークを迎えます。ハブクラゲは、言わざと知れた海洋危険生物ですが、インド洋からフィリピン・琉球列島まで分布し、6月～9月にかけて海水浴場に出現します。ハブクラゲの被害は7月から8月にかけてピークを迎えます。

特に人工ビーチや波の穏やかな海での刺傷事故が多発報告されています。深さ20cm程度の浅い砂浜でも被害の報告があるので、海水浴ではなく膝まで海水につかる程度で受傷したケースもあります。

ハブクラゲの触手には刺胞と呼ばれる毒針の入ったカプセルが多くあります。刺激を受けると毒針が飛び出すしくみになっています。ビーチには、刺されたときの応急処置についてポスターが貼られており、「食酢をかける」という応急処置はほとんどの沖縄県民は知っているはずなのでここでは割愛します。

刺傷部は、触手の形にそつた線状を呈し、厄介なことに炎症が強いとシミ(色素沈着)やカンパチ(瘢痕)を残しますので、早めに強力なステロイド外用薬で治療を開始しなければなりません。おまけにハブクラゲなど刺胞動物刺傷では、急性期を過ぎたあと(受傷から1週間前後)で、改善傾向にあります。しかし、ハブクラゲは数ヶ月の治療を要します。おまけにレルギー性皮膚炎を起こします。化粧品や湿布などのかぶれであれば、1週間前後で外用治療を終りますが、ハブクラゲは数ヶ月の治療を要します。

昨年、一昨年に当院で受診された方は、いずれもクラゲ侵入防止ネットがない海で下腿を受傷されました。ネットがあれば、遊泳時は肌の露出を避けるために、ウエットスーツやラッシュガード、長そでTシャツやスパッツ等の着用をお勧めします。(参考サイト…中部)

